

感じたことから

○ “人との違い” を尊重し、よさにつなげる

本校の6年生の修学旅行（5月）では、毎年、東京ディズニーランドに行くようにしています。今年の6年生も、2日目はほぼディズニーランドで過ごし、皆で楽しそうに回っている様子を見て、とても嬉しくなりました。

さて、そのディズニーランドのアトラクションは、様々なアニメをもとにして作られているのですが、子ども達、そして保護者の皆様が好きなディズニーアニメは何でしょうか？・・・私は、何ととっても「ダンボ」です。（今年の修学旅行では、まだ生まれてもない孫のためにダンボのぬいぐるみをお土産に買いました。※爺さん全開ですみません）



改めてですが、「ダンボ」は次のようなお話です。

子象のダンボは、耳がとて大きくまわりの象とは違う姿をしていました。だから、人間の子にもにはからかわれたり、嫌がらせをされたりいじめられたりします。仲間の象たちからも仲間外れにされます。ところがねずみのティモシーだけは違いました。ダンボを優しく励まし、意地悪な象たちにも立ち向かってくれました。そんなダンボですが、最後には、その大きな耳が、空を飛べるという素晴らしい能力につながっていることを示してくれました。

このダンボのお話から、次の二つのことを学ぶことができます。

- ① ティモシーのように、他者の“人との違い”をしっかり受け止め、尊重することの大切さ。
- ② “人との違い”にコンプレックスをもつことなく、それを自分らしいよさとして発揮していくことができる素晴らしさ。

①に関してですが、現在、アメリカの学校に在籍しているMさんが、夏休みを利用して本校に体験学習に来ています。実は、Mさんは、昨年も本校に来ていて、是非、今年も2年生に進級している子ども達と交流したいということで体験しています。そして、そのMさんの姿がとて素晴らしいのです。言葉も生活リズムも規則も違う日本の学校で、日本の文化を尊重し、自ら進んで学び、友達と交流し、日本の学校を心から楽しんでいるのです。まさしく、“人や文化の違い”を受け入れ、尊重し、人としての幅を広げているように感じます。



また、Mさんを囲む2年1組のみんながとて素敵です。Mさんに温かく接し、日米の違いを受け止めながら、それぞれの異文化を共有しているように感じます。そこには、国籍も言葉も関係なくお互いを尊重している姿を感じます。

②に関してですが、今、各学級に掲示している絵画がまさしくそのことを表しています。『そこをその色で塗るのか！』と驚かされる絵が、他にはないよさとして訴えかけています。一人一人の違いが個性として生きた絵に仕上がっていて見事です。

子ども達は得てして、自分や他人が持っている性質や特徴を、人と違う「ダメなもの」と決めつけたり、からかいの対象にしたりしがちです。しかし、“人との違い”は、まだ磨かれていない宝石の原石のようにも思います。子ども達の絵は、そのことを証明する一つであるように感じました。



「人は皆同じであり、人は皆違う」とは矛盾しているような言葉ですが、“人は人間として皆同じだけれど、一人一人それぞれに違いのある大切な存在”であることを表している言葉だと思えます。この言葉の意味を大切に、今後も本校の教育を一層充実させていきたいと思えます。